

「名鉄学科」キルギスで新設

中央アジア・キルギスの国立大に9月、名古屋鉄道グループがカリキュラム作成やインターンシップ（就業体験）受け入れを担う新学科が設けられる。トラックやバスなど自動車運送業分野の人材を育成する。人手不足が深刻化する中、名鉄は、優秀な外国人材を新学科で育て、即戦力として雇用していきたい考えだ。（塚田真裕）

国立大に来月

主導する名鉄エリアパートナーズ（名古屋市中）によると、送り出し機関と企業が連携して人材育成する例はあるが、企業が大学と組んで人材育成に乗り出すのは珍しいという。

新学科は、キルギスの首都ビシケクにあるアラバエフ国立大日本学院に設置。名称は「交通輸送工学科」を予定し、4年制で1学年20人を受け入れる。卒業生が日本で働くことを想定し、日本の在留資格「特定技能」の取得を支援。名鉄グループは3、4年次のカリキュラム作成に関わる。

トラックやバスの運転手や整備士として日本で働くことを想定し、日本の交通ルールや運転マナーを教え

運送業分野の即戦力育成

るほか、名鉄グループで最長1年間の就業体験を受け入れる。名鉄グループからの講師派遣も視野に入れつつ、鉄道分野にも教育の幅を広げる構えだ。

アラバエフ国立大日本学院には現在、ホテルサービス学科や社会福祉サービス学科などがあり、9月から日本での就職を目指して700人が学ぶ予定だ。交通輸送工学科の新設で6学科となる。

名鉄グループは2019年に、運営するホテルでの就業体験でアラバエフ国立大の学生を受け入れたことを機に交流を開始。現在も



日本学院が入るアラバエフ国立大の校舎＝キルギス・ビシケクで（四橋道徳氏提供）



キルギス 日本の約半分の国土に730万人が暮らす。「中央アジアのスイス」と呼ばれ、国土の4割が標高3千メートルを超える山々に覆われている。1991年に旧ソ連から独立。「かつて日本人とキルギス人は兄弟で、魚好きが日本へ、肉好きがキルギスへ来た」との伝承が残るほどの親日国。人口の5分の1が海外で働く。2024年の名目国内総生産（GDP）は世界135位。

5人の学生がホテルでの就業体験に取り組んでいる。両者は、昨年3月に特定技能の対象分野に「自動車運送業」「鉄道」が追加されるのが決まったのをきっかけ、学科新設を検討。駐日キルギス大使を交えて協議してきた。

キルギスでは国外に就業先を求め若者が多い。同大はキルギス有数の大学で、名鉄グループ側には、優秀な外国人材を確保しやすくする利点がある。

大学側は、日本での就職を後押しするため新学科設置を決定。卒業生が日本のノウハウを持ち帰ることも

期待しており、交通インフラ分野での就業は国の発展につながるかと判断した。同大は日本旅行（東京）とも人材の育成と就業機会提供に関するパートナー協定を結んでいる。同大の学長顧問で就職センター長の四橋道徳氏は「名鉄グループの協力で、学生の選択肢が広がった。両国の関係強化にもつながる」と期待。名鉄エリアパートナーズの担当者は「名鉄学科」と呼んでもらえるようになると話している。キルギスは親日国として知られ、勤勉で調和型の国民性とされる。